
性転換

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

性転換

【Nコード】

N4175N

【作者名】

潤

【あらすじ】

女子はどんな気分なんだろう？

そう思った西山薫は友人―藤前―に聞いてみた。

その翌日、西山は女子へと変わっていた。

「おいーっす」

「んああ。藤前か」

「どうしたー？」

「なんかお前らしくないぞ」

「いや、ちよいと変な考え事をしててな」

「なにをだ？」

「いや、女子ってどんな気分なんだろうってな」

「さあな？」

「なってみなきゃわかんねえな」

もしかしたらこの会話が

発端だったのかもしれない。

「おやすみー」

翌朝。

「あーおはよー」

「おはよー」

鏡なんざは普段は気にしなかった。

が、今日は朝起きたときから

妙な違和感があった。

髪の毛が異様に長い。

そして俺は見てしまった。

自分の変わり果てた姿を。

そう俺は男だよな？

なあ？

そう鏡の前の俺は

俺ではなかった。

…。

女。

性別が変わっていたのだ。

まー胸はないが。

髪が長く、声が高く。

身長もある程度低くなってる気がする。

親の呼ぶ名前も

「かおりー」

俺は「かおる」だ。

「お、お前はだれだ？」

学友である藤前に問われた。

「誰だって？」

俺は西山薫だ」

なんだこの元から女みたいな名前は。

「いや、西山は男だったぞ。

お前は女だ」

「俺は俺だ」

「お前、さては今まで男装していた女子か？」

「いや、俺は男だ」

「スカートはいていわれてもなあ…。

どうなってるんだ？

俺の頭がおかしいのか？」

「朝起きたらこんなになってたんだ」

「信じらんねえ」

翌日。

「おいなあ。俺は誰だ？」

「お前は藤前だろ…う…が？」

そう目の前にいる藤前も性別が変わり
女子へと変わっていた。

「どーおもう？」

「俺は彼女にするなら俺みたいなのがいい」

「ハア？」

そういうのを聞いてるんじゃない。

この状況をだ」

「別にいいんじゃないの？」

これもこれで楽しそうだし」

「気楽でいいねえ。」

体育の時間はどうする？

トイレだってどうする？

問題は山積みだぞ」

「そのときはそのときさ」

そしてその1カ月後。

性別が変わったのは俺と藤前だけだった。

俺も藤前もこの女子の姿にもなれて

楽しんだとこだったのになあ。

「おいー」

「妙に声が低いな、藤前」

「性別が戻ったぞー」

「…ホントだなあ、おい」

「俺お前を彼女にしてやるうか？」

「男の彼氏なんざいらん」

「まー、お前も戻れるといいな」

「ああ」

その翌日。

最近髪の毛くくる為に

見ていた鏡だったが。

今は呆然と見ていた。

髪の毛は元の髪型。

制服も手元にあるのは男子のん。

つまりこういうことだ。

俺は元に戻ったんだ。

「おはよー」

んんー？

どういうことだ。

さっきまでの夢か。

なんだなら問題なしだ…。

いや、これは正夢だー。

髪が長い！。

どうしたらいいものやら？

とかいっただい何事だ？

あの会話のせいかな？

（後書き）

潤がおくる性転換小説第2弾w

まーこっちのが書いたの古いけどねw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4175n/>

性転換

2010年10月8日15時00分発行